

■案件1「八戸市デジタル推進計画の取組状況について」

1. デジタルリテラシーの向上とICT教育の推進について

No.	意 見	回 答
1	○ 三浦構成員 ・「小中学校の授業等におけるICTの活用頻度指標」のうち、「ほぼ毎日活用」と回答した学校の割合が下がっているのが気になる。 ・ICTを使うかどうかで差がつくため、使用率をあげていく努力が必要なのではないか。 ・おそらくそろそろ端末の更新時期もやってくるため、使用しないともったいない。うまく使うと先生も楽になるはず。ぜひ活用促進をお願いしたい。	・施策4に係る「小中学校の授業等におけるICTの活用頻度指標」は、毎年4月に行われる全国学力・学習状況調査におけるアンケートによるものであり、「ほぼ毎日活用」と回答した学校の割合が令和4年度の45%から令和5年度の44%と1%下がっていることは事実です。 ・一方で、文部科学省が今年の2月に出した学びの充実に向けた方向性の中では、端末を週3回以上活用することを目標の1つとしており、令和5年度の同アンケートで見ると「週3回以上」と回答した小学校の割合は85%、中学校は74%となっております。 ・ICTの活用は児童生徒の主体的な学びの促進につながると考えております。 ・市教育委員会では、総合教育センターで行う研修講座の他に、今年度も要請のあった多くの小・中学校に直接出向いて、端末活用をテーマにした研修を行っており、今後も引き続き一人一人の教員の資質向上を支援して参ります。 ・令和7年と8年の2か年での端末更新も予定しております。 ・現在、整備計画とともに端末利活用計画を作成しており、それに基づいた計画的な整備を行い、活用促進を図って参ります。（総合教育センター）
2	○ 川上構成員 ・東京では逆にタブレットの使い過ぎが問題になっている。 ・授業等で活用していくことも大事だが、同時並行でリテラシー向上も課題。	・端末活用も大事であると同時に、情報リテラシーの向上も重要な課題であると認識しております。 ・現行の学習指導要領では、「言語能力」「問題発見・解決能力」とともに「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力として位置付けられており、情報リテラシーや情報モラルは端末の活用とセットで考えていかなければなりません。 ・市教育委員会では、児童生徒の実態に応じて学ぶことができるよう、教師用端末上に文

	・ 実例をもとにした教科書やガイドラインを作成し、リテラシー教育を図るべき。	・ 部科学省の提供する「情報モラル学習サイト」へのリンクを設定しております。 ・ また、健康に留意し、遅い時間の使用等を防ぐ観点から、フィルタリングソフトを導入し、サイトへのアクセス制限と利用できる時間帯の設定を行っています。 ・ 引き続き、児童生徒の情報リテラシーの向上が図られるよう、指導・助言を行って参ります。（総合教育センター）
3	○ 蕨構成員 ・ 現在、十和田市を中心に情報リテラシー教育を行っている。 ・ 1 時間の授業だけで伝えきことは難しいが、学校にやってほしいことを今から年間行事に加えるのも難しい。 ・ 教育委員会が主体的にプログラム等を組んでいただけるとやりやすい。 ・ 八戸市は学校によってまちまち。	・ 八戸市教育委員会では、動画やクイズ形式で学ぶことがより効果的であると考え、文部科学省の「情報モラル学習サイト」の活用を推奨しております。 ・ 情報リテラシーや情報モラルの学習は、教科横断的または総合的に学ぶことも大切である。 ・ しかし、なかなか年間計画に追加で組み込むことは難しい学校事情もあるため、国語科や社会科、道徳の時間の中で、あらかじめカリキュラムに組まれた単元や学習内容をしっかりと取扱うことが大切であると考えております。 ・ 児童生徒の情報活用能力向上のため、学校訪問での指導助言及び情報提供を引き続き積極的に行って参ります。（総合教育センター）

2. KPIの適切性について

No.	意見	回答
1	○ 紺野構成員 ・ アプリ等を活用した街中でのイベントの際の効果測定をしてみたら面白いのではないかな。	・ 御意見いただきましたイベントごとの効果測定など、KPI 設定の妥当性について今後も検討し、必要に応じて次期計画策定に反映して参ります。（まちづくり推進課）
2	○ 蕨構成員 ・ 「はちも」が App ストアで探せない。「はちも」については、HP 上にQR	・ 市ホームページ内に「はちも」のダウンロードリンクを追加し、スマートフォンからも直接アプリストアにアクセスできるように修正いたしました。（子育て支援課）

	コードがあってもダウンロードリンクがない。携帯画面でQRコードが表示されても読み込めない。動線の見直しが必要。	
--	---	--

■案件2「八戸市窓口業務改革プロジェクトについて」

No.	意見	回答
1	○ 古川構成員 ・ 本館1階サイネージが入口から見えないのが残念。待ち人数や待ち時間が表示されればよい。	・ 今年度、窓口業務改革プロジェクトの事業として、庁舎レイアウト最適化基本計画を策定する予定としておりますが、その中で、費用対効果も含め今後検討して参ります。（情報政策課）
2	○ 蕨構成員 ・ 11月の窓口開始後、振り返りの計画が必要ではないか。取得したデータをどう使うか、オープンデータとして、学生たちに利用させるのはどうか。	・ 令和6年9月20日に開催された令和6年度第1回八戸産学官連携推進会議において、「八戸市デジタル推進計画」の主な取組である、「産学官の連携によるオープンデータの活用促進」及び「産学官の連携によるデジタル人材の育成・確保」を推進するため、八戸市高等教育連携機関とデータサイエンス教育に関する連携を図ることといたしました。 ・ 具体的な取組内容といたしましては、市が所有する多様なオープンデータを市内の高等教育機関4校に提供し、授業や調査研究・分析などに活用するほか、市主催のITフォーラムやワークショップ等への参加を促進する等、高等教育機関による地域活性化のさらなる推進に繋げてまいります。 ・ データサイエンス教育を充実させることにより、学生の実践的能力が向上するとともに、地域にとっては、デジタル人材の発掘・育成にも繋がることから、産学官が一体となって取り組んでまいります。（情報政策課）